

2026年5月12日

報道関係者各位

テクマトリックス株式会社
(東証プライム / 証券コード: 3762)

C言語/C++言語対応テストツール「C/C++test 2025.2」の販売を開始

MCP サーバー搭載による AI 連携強化 / MISRA C:2025 に完全対応 / CWE 対応を大幅強化

テクマトリックス株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：矢井隆晴、以下「テクマトリックス」）は、米国 Parasoft Corporation（本社：米国カリフォルニア州、最高経営責任者：Elizabeth Kolawa、以下「Parasoft 社」）が開発した C 言語/C++言語対応テストツール「C/C++test 2025.2」の販売を 2026 年 5 月 12 日より開始します。

C/C++test は静的解析（コーディング規約チェック・フロー解析）、動的解析（単体テスト、カバレッジ計測、実行時メモリエラー機能など）を搭載した C 言語/C++言語対応オールインワンテストツールです。車載機器、産業機器、医療機器、OA 機器といった組み込みソフトウェアの開発や、ミドルウェアの開発、Windows/Linux アプリケーションの開発など、さまざまな現場で利用されています。開発工程に C/C++test による静的解析、単体テストを組み込むことにより、テストの効率化とソースコードの品質向上が期待できます。

このたびのバージョンアップでは、MCP（Model Context Protocol）サーバーの搭載により、AI エージェントや LLM（大規模言語モデル）ベースのコーディングアシスタント（GitHub Copilot など）と連携したスムーズなツール利用が可能となりました。MCP サーバーが静的解析の結果や、検出された違反のルールドキュメント、およびユーザーガイドの情報を AI エージェントに提供することで、違反に対する具体的な修正案やツール利用における問題の解決方法などを提示できるようになりました。

コーディング規約のサポートの強化として、最新の C コーディング標準である MISRA C:2025（2025/3 発行）に「完全対応」しました。MISRA C:2025 は MISRA C:2023 の改良版と位置付けられたアップデートとなり、コンプライアンス負荷軽減のためのルール削除/集約、AI 生成コードへの方針の明確化、機能安全性の強化としてポインタや union 管理の厳格化などが行われました。また、CWE（Common Weakness Enumeration）に対応するルールが大幅に増加し、107 種類の CWE-ID に対応するルールが用意されました。

そのほか、静的解析の抑制機能の強化、単体テストの詳細カバレッジレポートの作成機能の強化、およびサポート環境として NVIDIA CUDA Compiler 12.8 など追加されました。C/C++test の付属アプリケーションである Parasoft DTP では、「テスト失敗の分類」機能、LLM と連携した AI チャットボットなどが追加されました。

テクマトリックスは、Parasoft 社製品の国内総販売代理店として、ソフトウェア開発に携わるすべてのお客様の課題を解決する最適なツールとして、C/C++test の販売、マーケティング、ユーザーサポートなどの活動を強化してまいります。

【C/C++test 2025.2 の新機能・改善点】

● AI エージェントとの連携を強化する MCP サーバーを搭載

MCP (Model Context Protocol) サーバーが搭載されました。MCP サーバーは AI エージェントが外部のシステムやデータにアクセスできるよう「ブリッジ」の役割となる仕組みです。静的解析のレポートや MISRA などのコーディング規約や安全規格と結び付けられた構造化データを、MCP サーバーが AI エージェントに提供することで、AI エージェントだけでは持ちえない情報を得ることができ、これらの情報を加味した回答生成や提案ができるようになります。MCP に対応した AI エージェントまたは LLM ベースのコーディングアシスタント (GitHub Copilot など) であれば、簡単に統合が可能です。この機能は MCP サーバーとの連携をサポートする LLM 対応開発環境 (Eclipse、Visual Studio、Visual Studio Code など) で使用可能です。

AI エージェントへの問い合わせ例：

- 静的解析で検出された違反に対する自律的な修正の提案
- ルールの説明やルールセットの最適化
- ツールの使用方法の確認など開発者支援

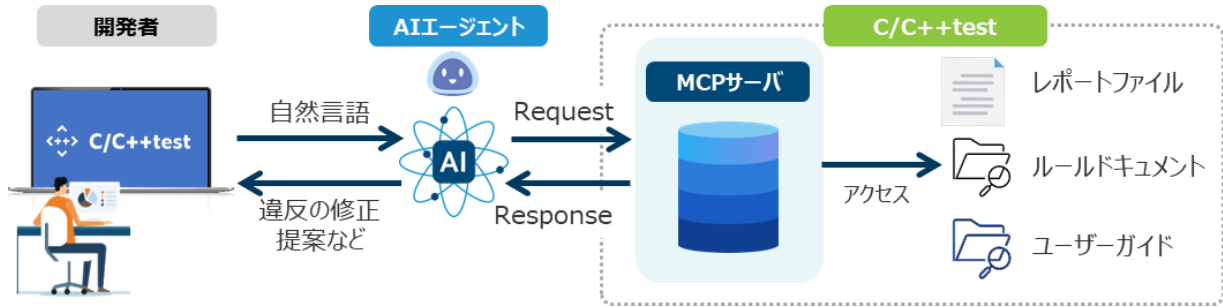


図 1. MCP サーバーと AI エージェントによる効率的なテストの実施

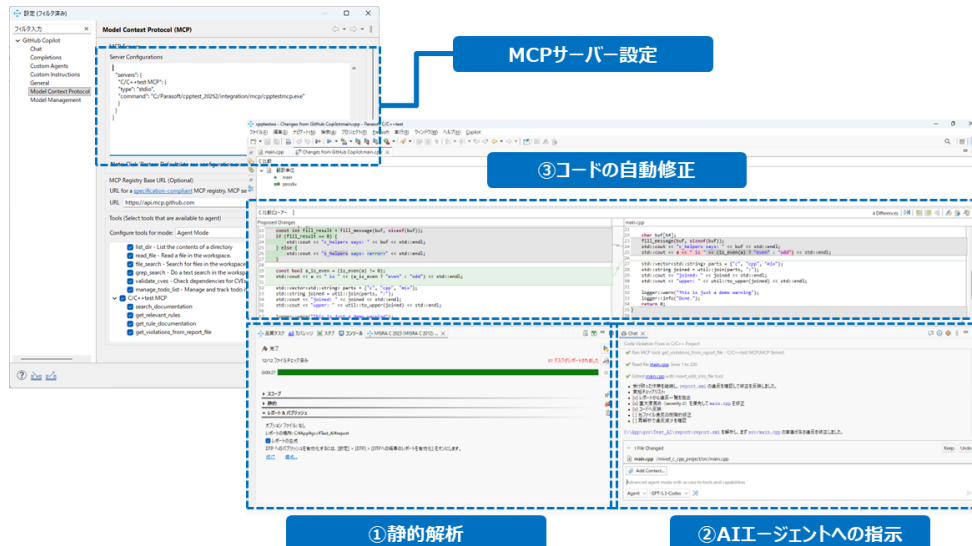


図 2. Eclipse IDE での AI 連携機能の利用イメージ

※1 C/C++test には LLM プロバイダーの利用契約は含まれていません。利用者が個別に契約する必要があります。また、AI の利用に関しては必ずお客様の組織のポリシーをご確認ください。

- **MISRA C:2025 に対応**

最新の C コーディング標準の MISRA C:2025（2025/3 発行）に完全対応しました。MISRA C:2025 は MISRA C:2023 の改良版と位置付けられたアップデートです。C/C++test によるコーディング規約のチェック機能と、Parasoft DTP のコンプライアンスレポートの作成機能により、MISRA C:2025 への準拠をサポートします。

※2 コンプライアンス関連機能の使用には専用の有償オプションが必要です。

MISRA C:2025 では、時代遅れとなったルールの削除や内容の集約によるコンプライアンス負荷軽減、AI 生成コードを手書きコードと同等に扱う方針の明確化、機能安全性向上を目的としたポインタや union の管理強化、switch 文における case/end の終了方法の柔軟化などの改善が加えられました。ガイドラインには、新規ルールの追加（4 件）、ルール削除（2 件）、適用されないルール（Disapplied Rules）（1 件）、番号が変更されたルール（3 件）、内容が変更されたルール（13 件）の変更が行われました。逸脱が認められないルールカテゴリである Mandatory のルール数は 24 から 22 に減少しています。

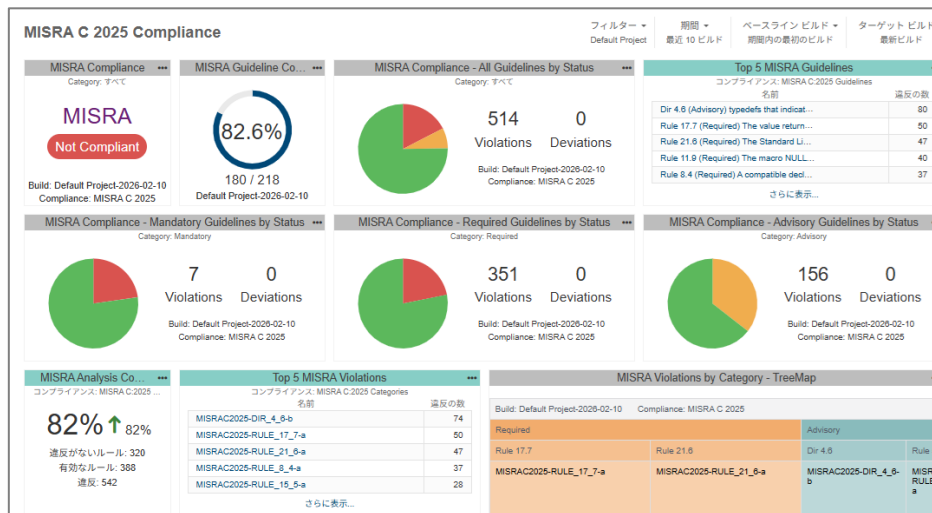


図 3. Parasoft DTP における MISRA C:2025 ダッシュボード

- **CWE 対応を大幅強化**

CWE（Common Weakness Enumeration）は、ソフトウェアやハードウェアに存在する脆弱性の種類を体系的に分類する標準リストです。今回のアップデートにより、新たに 60 種類以上の CWE-ID に対応するルールが整備され、合計 107 種類の CWE-ID に対応しました。MITRE（※3）が毎年発表する「CWE Top 25」および、その直下に位置する「On the Cusp」に含まれる重要な脆弱性への対応に加え、これらに含まれない多くの CWE-ID にも対応しました。また、「CWE Top 25」および「On the Cusp」に含まれる脆弱性をまとめたルールセットも提供され、専用ダッシュボードを用いることでガイドラインへの準拠状況を確認し、DTP でコンプライアンスレポートを作成できます。

※3 MITRE Corporation は、米国の非営利団体であり、米国連邦政府や各州・自治体などの公共機関に対して研究開発等の支援を行っています。

※4 コンプライアンス関連機能の使用には専用の有償オプションが必要です。

Press Release

- **静的解析の抑制機能の強化**

テストコンフィギュレーションに「同等のルール違反を自動的に抑制する」が追加されました。このオプションを使用すると、同等のルール違反に対して既存の抑制設定を自動的に適用できるため、複数のコーディング規約での作業や、あるコーディング規約から別のコーディング規約への移行が容易になります。例えば、ある AUTOSAR のルールを抑制した際、同等の解析ロジックを持つルールと判断された MISRA のルールも同時に抑制することが可能です。

- **単体テストの詳細カバレッジレポートの作成機能の強化**

従来の単体テストでは1回のテストで詳細カバレッジレポートは1種類のみしか作成できませんでしたが、1回のテストで複数種類の詳細カバレッジレポートを作成できるようになりました。これにより、レポート作成に必要なテストの実行回数が削減され、単体テストを効率的に実施できます。

- **サポート環境の追加**

プラグイン可能な IDE として、Eclipse4.22 (2021-12) -4.37 (2025-09) が追加されました。

サポートコンパイラとして、ARM Compiler 6.22 (※5)、Clang C/C++ Compiler v19.0 for aarch64

(※5)、Clang C/C++ Compiler v19.0 for x86_64 (※5)、GNU GCC for arm/aarch32 12.x、13.x、14.x

(※5)、GNU GCC for aarch64/arm64 14.x (※5)、GNU GCC for x86_64 14.x (※5)、Hexagon Clang

Compiler v19 (※5)、Intel Classic C/C++ Compiler 2021.6 for x86_64 (※5、※7)、Intel oneAPI C/C++

Compiler 2022.1 for x86_64 (※5、※7)、IAR Compiler for RISC-V v3.30.x (※6)、NVIDIA CUDA

Compiler 12.8 (※5、※7)、QNX GCC 12.x for ARM64 (※5)、TI ARM Clang Compiler 3.2 (※5) が追

加されました。NVIDIA CUDA Compiler 12.8 のサポートにより、CUDA C/C++コード (.cu) に対し

※5 Linux のみ

※6 Windows のみ

※7 静的解析のみ

【Parasoft DTP 2025.2 の新機能・改善点】

- 「テストの失敗の分類」機能の追加

テスト失敗の原因を機械学習で自動判定し、品質評価を効率化する機能が追加されました。ユーザーが DTP 上で失敗した単体テストに原因ラベルを付けると、その情報を学習したモデルが、ラベリング済み・未ラベリングの失敗テストの根本原因を自動予測し、調査や優先順位付けを支援します。

- **LLM 機能と連携した AI チャットボットの追加**

DTP の「ヘルプ」メニューから「Parasoft IDA (Intelligent Digital Assistance)」にアクセスできるようになりました。DTP の利用に際して、従来のユーザーガイドの確認だけでなく、対話形式で使用方法や用語などの確認ができます。

※8 外部ネットワークとの接続が必要です。

- **サポート環境の追加**

PostgreSQL 17、Windows Server2025 のサポートが追加されました。ALM ツール連携では、

Codebeamer 2.1、Polarion 2404 のサポートが追加されました。

製品の詳細につきましては web ページをご確認ください。

C/C++test の URL : <https://www.techmatrix.co.jp/product/ctest/>

- ・ **販売開始日**
2026 年 5 月 12 日
- ・ **出荷開始日**
2026 年 5 月 12 日

2026 年 5 月 12 日において、保守サービスをご契約いただいている C/C++test ユーザー様には、「C/C++test 2025.2」バージョンアップ製品を無償でご提供します。

■Parasoft Corporation について

Parasoft 社は、30 年以上にわたり、ソフトウェアのバグがアプリケーションに混入する原因と仕組みを研究し、数々のソリューションを提供してきました。Parasoft 社のソリューションは、ソフトウェア開発ライフサイクルにおける継続可能なプロセスとして、品質改善活動を支援し、堅牢なソースコードの実装、無駄がなく機能性の高いシステムの構築、安定したビジネスプロセスの実現を可能とします。数々の賞を受賞した Parasoft 社製品は、長年の研究成果と経験から得られたノウハウを自動化し、エンタープライズシステムから組み込みソフトウェアまで、どのようなタイプのソフトウェア開発においても、生産性向上と品質改善を実現します。

詳細は Web サイト : <https://www.parasoft.com/> をご参照ください。

■テクマトリックス株式会社 について

テクマトリックス（東証プライム：3762）は、お客様のニーズに沿った最適な IT インフラと IT ライフサイクルをワンストップで提供する「情報基盤事業」、蓄積された業務ノウハウを実装したアプリケーションの提供により顧客の課題解決を実現する「アプリケーション・サービス事業」、「医療情報をみんなの手に。そして、未来へ。」をテーマに健康な社会を支える医療情報インフラの構築に取り組む「医療システム事業」の 3 事業を展開し、顧客企業のビジネスモデル変革と競争力の強化をサポートしています。

詳細は Web サイト : <https://www.techmatrix.co.jp/index.html> をご参照ください。

<本件に関するお問い合わせ先>
テクマトリックス株式会社
ソフトウェアエンジニアリング事業部 Parasoft C/C++test 担当
E-mail : parasoft-info@techmatrix.co.jp
TEL : 03-4405-7853

*本原稿に記載されている社名及び製品名等は、各社の商標または登録商標です。